あいさつから明るい社会

日野中学校　二年　歯黒　咲歩

はぐろ　さきほ

私が犯罪に巻き込まれないようにするためには、どうしたらよいのだろう。そう考えたとき、私は毎日の「あいさつ」や感謝の気持ちが大切なのではないかと思いました。あいさつをすると、自分も相手も気持ちがよくなり、知らなかった人とも顔見知りになることができます。そうした人とのつながりが、困ったときに助け合うことにつながると思ったからです。

私は、あいさつや地域の人との関わりについて考えるきっかけになった経験が三つあります。

一つ目は、近所を毎日歩いているおじいさんのことです。私はいつもこちらを見ているような気がして、初めは少し怖い人だと思っていました。しかし、ある日、思いきって「こんにちは」とあいさつをすると、おじいさんも「こんにちは」と返してくれました。

そのとき、とてもいい気持ちになりました。

あいさつをするだけで相手への感じ方が変わるのだと気づき、それからは前より安心できるようになりました。

二つ目は、自転車で通学している途中の出来事です。横断歩道を渡ろうとしたとき、一台の車が止まってくれました。私は運転手の方におじぎをしました。その方はたまたま私の知っている人で、後から「あいさつができていていいね」とほめてくれました。私は、車が止まってくれたときのおじぎを当たり前のようにしていましたが、自分にとって当たり前のことでも、相手にとってはうれしいことなのだと気づきました。「ありがとう」という気持ちは、言葉や行動で伝えることが大切なのだと思いました。

三つ目は、地域の方から、私たち中学生の通学について話を聞いたことです。「通学するときのマナーがよくない」「注意しても、素直に聞かないことがある」という声があり

ました。私は、地域の方はただ注意していたのではなく、普段から私たちの登下校を見守ってくださっているからこそ、気づいたことを伝えてくださっているのだと思いました。

注意されたときに話を聞き、自分の行動を振り返ることも、地域の方との信頼につながると思います。

私は、あいさつによって地域の人と顔見知りになれば、困ったときや犯罪に巻き込まれそうになったときにも、助けを求めやすくなるのではないかと思い、地域の防犯活動について調べました。

滋賀県では、「NPOいきいきおうみ」という団体が、地域の人たちと協力して「あいさつ運動」や青色回転灯を付けた車による防犯パトロールを行っていることを知りました。

あいさつを通して人とのつながりをつくり、地域で支え合うことも大切にしているそうです。

また、私の住んでいる日野町でも、青パト

による見守りや、あいさつ運動、登下校の見守りなどが行われています。私は今まで、そのような活動に参加したことがありませんでした。しかし、地域の方が子どもたちを見守ってくれていることに気づきました。

地域の力に見守ってもらうだけではなく、私たち自身も地域の一員として行動することが大切です。あいさつをすること、感謝を伝えること、注意されたときに素直に話を聞くことなど、私達にもできることがあります。

今回、自分の経験や地域の取り組みについて考え、私自身もあいさつをせずに通り過ぎてしまったことがあると振り返りました。これからは、知っている人だけでなく、地域で出会った人にも自分からあいさつをしたいです。バスに乗ったときには運転手さんに「おねがいします」「ありがとうございます」と伝え、困っている人を見かけたときには、自分

から声をかけられる人になりたいです。

一人のあいさつだけで犯罪がなくなるわけではありません。しかし、一人一人があいさつをし、周りの人を気にかけることで、人と人とのつながりは少しずつ広がっていくと思います。私も地域の一人として、毎日の小さな「あいさつ」から、みんなが安心して暮らせる明るい未来をつくっていきたいです。

20 × 20